

栗沢クラインガルテン



クラインガルテンを朝のお散歩コースに取り入れている地元の人たち。

栗沢に本格クラインガルテン開設

栗沢クラインガルテンは、札幌市より東方40kmに位置する栗沢町にあり、札幌市から車で約60分高速利用の場合(約30分)で来ることができる都市近郊の田園地域です。

平成3年に山田町長がドイツ、オランダ、デンマークなど北欧へ視察に行った際、クラインガルテン(ドイツ語：小さな庭)を利用し週末を郊外で過ごすライフスタイルに非常に感銘を受けたことが契機となり、町が進めている「都市と農村との交流拠点・地域活性化」の起爆剤にならないか調査検討を指示しました。平成5年度より整備を開始し、5年の歳月を経て平成10年5月にオープンとなりました。「コジ」はラウベ(小屋)を利用した北海道初の滞在型市民農園がある農村体験公園です。

地域住民の不安を交流促進で解消

計画の段階で心配したのは、事業費の工面と利用丁ズの有無についてです。

まず事業費は、道管中山間地域農村活性化総合整備事業と国の山村振興等農林漁業特別対策事業の補助事業を取り込み、その他を町費で賄いました。また、利用丁ズがあるかどうか、最後まで気がかりでしたが、募集を開始すると予想以上の反響の大きさ、問い合わせ、申し込みの数に非常に驚くとともにほっと安堵しました。全国的に雄大な自然が広がる土地として知られている北海道でさえも、大都市圏札幌や周辺市町村では都市化が進み、生活の中で自然や土に触れる機会が少なくなつた都市生活者が大勢いることに気がされました。

地元では開園当初、大きな不安も抱えていました。それは近隣の町民の方が自分たちの生活が脅かされるのではないかとということです。クラインガルテンの周りは水田や畑で囲まれているので、周辺の農家の方にとっては、例えば利用客や見学に来られた方の車の往来があるので農道を今までのように作業機をつけて走れないのではないかと、またゴミの投げ捨てなど不安材料はたくさんありました。

しかし、

実際に開園してみると、それほど問題もなく順調にいったいます。

また、様々なトラブルを発生させないために、利用者や地域住民とのコミュニケーションをクラインガルテンが仲介となって進めるようにしています。例えば、年に1度町内会の道路清掃にクラインガルテン利用者も協力し、参加しています。また、クラインガルテン主催による「ふれあい交流会」を夏に、「収穫祭」を秋に開催し、地域住民との親睦を深めていますし、夏にはこの地域の町内会の運動会に「クラインガルテンチーム」として参加しています。

今では当初の不安が嘘のように、利用者や地域住民との間では交流が深まっています。不安を解消する一番大きな解決策は、この交流にあったと思います。



日帰り型市民農園で作業する人々。水廻りが近くにあるので楽なのが、利用者にも好評。奥に見える屋根が、滞在型のラウベ。



滞在型市民農園の風景。ラウベ(小屋)を利用して滞在する。



秋のいも掘り体験。大人も子供も楽しそうに作業をしている。



土里夢館でのそば打ち講習会。参加者はクラインガルテンの利用者。皆さんいつも熱心に取り組んでいます。

設立目的の交流促進は達成された

クラインガルテンの整備の大きな目的は、国道234号に近いという交通の利便性、石狩平野を一望できるというロケーションの良さ等の有利性を生かし、カントリーライフを楽しむ公園として位置づけ、都市と農村の交流の場、農業体験ができるクラインガルテン(小さな庭)、また地域の健康づくりとレクリエーションの場として整備することでした。

町ではそれと併せて別の戦略的なねらいも持っていました。まず第一に、農園の利用によつて農業への理解を深めてもらい、都市住民と農業者との交流による農産物の販売促進で地域の活性化を図ること。第二に、クラインガルテンのある町、栗沢を知ってもらつことで、利用者のネットワークを生かした町の知名度アップとPRを図ること。

そして、最終的には農園の利用がきっかけで町を気に入ってもらい、町に住んでもらえればと思っています。

最後の移住についてまだはつきりとした効果は現れていませんが、第一、第二についてはすでに目標が達成されていると言えます。

農産物の販売促進に関して言えば、先にも述べたように利用者とは近隣農家の人たちとはすでに交流が生じているので、その農家から農産物を購入したり、知り合いの農家から別農家を紹介されて買い物に行っている利用者もいます。また、最近では農家が道沿いに直売所を設けている人が多く、その店を巡っている利用者も多くいます。

さらに、利用者に農産物以外にもつと色々なものを買ってもらつと、商工会が発行しているポイントカードを利用者に渡しています。このポイントカードは町内のほとんどの商店や飲食店が加盟しているため、利用者が滞在中の食材の買出し時にも使うことができます。食料品以外にも衣料品店や雑貨店などでも利用できるので大変便利です。買物でカードのポイントが加算され、カードが満ちると1,000円分の金券になり、お得感もあるので、多くの方が利用しています。

市民農園以外にも幅広く利用されている

栗沢クラインガルテンは、市民農園(滞在型・日帰り型)以外に体験農園、ハーブ園、パークゴルフ場、学習田、自然観察の森、土里夢館(管理棟)を併設しています。

なかでも土里夢館には農産加工室や調理実習室があるので、お味噌や豆腐、ソーセージ、アイスクリーム、燻製をつくることができます。また缶詰入等の加工もできる機械もあります。この使用料は町民であるか否かに関わらず、低料金調理実習室…1人午前100円・午後100円/農産加工室…1室1日1,000円/ガス・電気・水道代含)で利用することができるので、町内だけでなく近郊の主婦の方たちやグループに利用されています。

冬場はやはりお味噌や豆腐づくりが中心です。夏場にはアイスクリームソーセージづくりが多く見られます。また、缶詰加工のできる機械があるのは近郊ではここぐらいなので、販売を目的とする町内外の7団体がトマト・にんじん等の瓶詰や缶ジュースの加工を保健所の許可を得て製造しています。製造のピーク時(7月~11月)は販売用以外の方が利用できないので、これ以上販売を目的とする団体の数を増やすことはできないかと思っています。近郊の主婦の方たちやグループなどの一般の方が多いのは自家製のミニトマトジュースづくりです。ミニトマトの生産農家がそれぞれ持ち寄ったトマトで1日1,200缶を朝から夕方にかけて作るのです。そして皆さん、親戚や知り合いに贈ったりするので、ミニトマトのジュースは普通の



土里夢館加工室を利用してソーセージ作りをしている地元の人々。ここで作業をしながら楽しくおしゃべりするのが、利用者の楽しみ。

トマトジュースよりも甘みがあるので、贈られた人からも好評だと聞いています。

滞在中の農村空間づくりが次の目標



滞在型利用者の多くは、庭にテーブルを出し、隣近所の人たちと作業後のお茶会など行って、交流を深めている。

平成10年の開設から今年でちょうど5年目、市民農園(滞在型)の契約期限となります。栗沢のクラインガルテンは希望すると、最長5年間契約期間は1年間(継続して同じ区画を使えるので、利用者の皆さんが一生懸命苦労して作られた土地を手放したくない、契約の延長はできないのか、と問い合わせや要望が寄せられています。

最近では、利用者の方からどこかいい場所はないか、今は週末だけでもリタイヤしたら栗沢に住みたい、との声もちらほら聞こえ始めました。そのような方たちに定住に向けてもつと自信をもってもらえるようバックアップする意味でも今後、こつこつと要望にこつこつこたえるのか、本州でも取り入れられている期間延長等も検討していかねばと考えているところです。

私たちはここをひとつの拠点として、田植えや芋掘りなどの農作業体験や農産加工ができる総合的な農村空間として、都市圏の人や地域、近郊住民の交流を深めることのできる場所づくりを目指し、その結果、栗沢町に定住してくれる方が一人二人といってくれると素晴らしいと思っています。

栗沢クラインガルテン

館長 本田秀成

土里夢館

館長 本田秀成